

シンポジウム

人類の時代 第四紀は残った

日時：1月22日（金）10時～17時15分

場所：日本学術会議講堂（〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34）

2009年6月30日、国際地質科学連合（IUGS）執行委員会は第四紀を正式の地質時代として認め、その始まりを258.8万年前とする新たな定義を批准した。これにより、長年、地質区分として不確定であった第四紀が正式な紀／系として認められ、激しい環境変動と人類の出現・進化を特徴とする、最新の地質時代が誕生した。

本シンポジウムでは、今回批准された新たな定義を確認し、第四紀の持つ重要性を再認識するとともに、研究教育や産業活動に及ぼす影響を議論する。

- 10:00-10:05 趣旨：地質年代区分の現状と問題 齋藤靖二（生命の星・地球博）
- 10:05-10:30 地球生命史からみた新しい時代の意義 北里 洋（JAMSTEC）
- 10:30-11:00 第四紀定義問題の歴史 奥村晃史（広島大）
- 11:00-11:30 地質時代の決定と第四紀の模式地 新妻信明（元静岡大）
- 11:30-12:00 人類進化と第四紀 海部陽介（国立科博）
- 13:00-13:30 石灰質ナノ化石からみた本邦の第四系と古海洋 佐藤時幸（秋田大）
- 13:30-14:00 日本の第四系—古地磁気・同位体層序から見た房総半島上総層群および千倉層群 岡田 誠（茨城大）
- 14:00-14:30 日本の第四系—3.5～1.5Maの広域テフラ層の層序と給源火山地域 長橋良隆（福島大）
- 14:45-15:15 日本の第四系—応用地質における第四系 井上大榮（電力中研）
- 15:15-15:45 地質情報からみる第四紀問題 尾崎正紀（産総研）
- 15:45-16:15 アジアの地質にみる第四紀—アジアの大河川とメガデルタ— 齋藤文紀（産総研）
- 16:15-17:15 総合討論（教育に関連する話題を中心に）

問い合わせ先
奥村晃史（kojiok@hiroshima-u.ac.jp）
住所：〒739-8522 東広島市鏡山 1-2-3 広島大学大学院文学研究科
電話：082-424-6657
齋藤靖二（saitou@nh.kanagawa-museum.jp）
住所：〒250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館
電話：0465-21-1515（代）

主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会・INQUA 分科会
共催：日本地質学会・日本第四紀学会